

講義名	アジア流通論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	向山 雅夫		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 / 2018年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2018年度 経済学部 経済情報学科 / 2018年度 経済学部 経済学科 / 2018年度 商学部 マーケティング学科 / 2018年度 商学部 経営学科 / 2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	43066

主題と概要

「アジア流通の現在と未来」について理解することが本講義のテーマである。いまアジアでは、流通革命が急速に進行している。その現実を見つめたうえで、今後アジアの流通で何が起きるのかわを見通してみる。それに際しては、アジアの流通先進国の経験を辿ることがもっとも有効である。そこで、我が国における流通の過去から現在までを「小売企業成長戦略」という概念の元で、包括的に検討する。

到達目標

- 以下の点について理解を深めること。
1. アジア流通の現在を知る
 2. 流通革命の本質を理解すること
 3. 企業成長の論理を知ること
 4. 企業成長のための戦略の個々の内容について考えること
 5. 日本の流通の発展について語るようにすること

提出課題

何種類かのレポートを課す（詳細は講義初回に説明する）

評価の基準

最終試験とレポートの得点をもとに評価する。ただし、レポートは通常よく実施される形式だけではなく、多様な形式で数回実施する。また、出席者との双方向のやり取りを取り入れた講義を実施するので、それに貢献した出席者にはその都度ボーナス点を付与する。詳しい仕組みは、講義初回に詳細に説明する。

履修にあたっての注意・助言他

本講義では出席はとらない。最終試験と中間レポートの成績で単位取得可能である。ただし、より高い得点を狙う学生には、「学べば学ぶほど持ち点が増加する」新しい手法を試みる。

教科書

.使用しない.

プリント資料及び参考文献

参考文献

- ・ 田村正紀、『業態の盛衰』、千倉書房、2008.
- ・ 石井淳蔵&向山雅夫(編著)、『小売業の業態革新』、中央経済社、2009.
- ・ 向山雅夫&崔相鐵(編著)、『小売企業の国際展開』、中央経済社、2009.
- ・ 矢作敏行(編著)、『デュアル・ブランド戦略』、有斐閣、2014.
- ・ 向山雅夫&J.Dawson(編著)、『グローバル・ポートフォリオ戦略』、千倉書房、2015.

授業計画

1. 詳細なオリエンテーション - 本講義をどのように受講するべきか？ -
2. 流通革命とは何か？
3. アジアで進行する流通革命
4. アジアで進行する流通革命
5. 流通企業成長パターン1：規模拡大 - 店舗数増加戦略 -
6. 流通企業成長パターン1：規模拡大 - 店舗数増加戦略 -
7. 流通企業成長パターン1：規模拡大 - 店舗規模拡大戦略 -
8. 流通企業成長パターン2：市場拡大 - 小売国際化 -
9. 流通企業成長パターン2：市場拡大 - 小売逆進出 -
10. 流通企業成長パターン2：業態開発 - 業種と業態 -
11. 流通企業成長パターン2：業態開発 - 業種と業態 -
12. 流通企業成長パターン2：業態開発 - 業態開発事例 -
13. 流通企業成長パターン2：業態開発 - 業態開発事例 -
14. 流通企業成長パターン3：利益拡大 - PB開発 -
15. 流通企業成長パターン3：利益拡大 - PB開発 -

予習・復習

予習：本講義の内容に関連する参考文献を副読本として各自で自由に読破し、講義内容の理解を容易にする努力をしてほしい。

復習：数回実施するレポート課題に取り組むことで、講義内容をより深く理解してもらいたい。

備考

本年度の講義は、(1)商学部における流通関係の講義すべてに関わるトピックを包括的に取り上げて、流通の世界に興味を持ってもらうこと、(2)学びたい学生に真剣に講義に取り組んでもらうこと、を狙っている。よって、出席する学生には正しい「学びの姿勢」を強く求めるものであり、教室後方への着席を禁じ、座席指定制を採用する予定である。それによって、途中退席・私語・スマホ使用など講義に真剣に取り組まない学生に対しては、TAによる厳格なチェックを実施し、減点をする。